

# 八戸三社大祭

問観光課**四**43-9252

今年の八戸三社大祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神社行列・山車行列および 山車展示が取り止めとなりました。

二年連続でお祭りのない夏を迎えることは大変残念ですが、この機会に改めて八戸三社大祭 がどのようなお祭りなのか振り返り、その魅力に触れてみたいと思います。

# 江戸のいにしえに行われた豊作祈願とその報恩のための神事

昨年、発祥300年を迎えた八戸三社大祭。

享保5年(1720)、凶作に悩む八戸の有力者たちが、法霊大明神(現在のおがみ神社)に天候の回復と豊作を祈願したところ、無事に秋の収穫を迎えることができました。そのお礼として、八戸藩の許可のもと、武士や町人から寄進を募ってお神輿を建造し、享保6年(1721)に長者山三社堂(現在の長者山新羅神社)に渡御したことが、八戸三社大祭の始まりと言われています。

三社とは、おがみ神社、長者山新羅神社、神明宮の三つの神社のこと。 はじめはおがみ神社の行列だけでしたが、明治時代に長者山新羅神社と 神明宮の行列が加わり、三社の合同のお祭りとなりました。

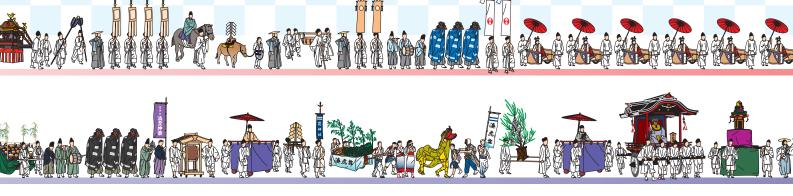
毎年8月1日には、三社のお神輿がおがみ神社から長者山新羅神社へ向かう「お通り」が行われます。

「お通り」では、神明宮、おがみ神社、長者山新羅神社の順で行列が続き、各神社の行列には、附祭として合計27台の絢爛豪華な山車行列が加わります。また、各神社の行列には、「神楽」や「虎舞」など古くから地域に伝わる郷土芸能が参加し、各神社の行列を華やかに彩ります。

残念ながら今年も神社行列や山車行列を見ることはできませんが、来 年、盛大に八戸三社大祭が開催された際には、ぜひ、三社の神社行列の構 成の違いや祭りを彩るさまざまな郷土芸能に注目してみてください。







# 八戸三社大祭の行列を彩る郷土芸能

## きなの葉踊



藩政時代からの歴史ある踊り「笹の葉踊」 は、明治時代に入ると八戸三社大祭から 姿を消しましたが、平成に入ると、古文 書などを頼りにおがみ神社によって復活 しました。笹の葉を手にした踊り子が、 お囃子に合わせて可愛らしい踊りを披露 し、沿道の観客を和ませてくれます。



花街として栄えた小中野地区・鮫地区の 芸妓が乗る屋台として、明治時代から行 列に参加していたと言われています。 そ の後、祭りへの参加が途絶えた時期もあ りましたが、平成9年、市内の日本舞踊の 師範などの手により復活を遂げました。 「八戸小唄」の踊りで三社大祭の行列の しんがりを華やかに彩ります。

### 駒踊



馬の産地である三八上北・岩手県北地域 に分布する芸能で、馬の模型を胴に固定 し、跳ねるように踊る舞。明治時代から八 戸三社大祭に参加していたと言われてい ますが、その後参加が途絶え、平成になっ て復活し、現在に至ります。八戸三社大 祭では、神明宮の行列に参加しています。



滑稽な動きで沿道の人々を和ませている 「虎舞」。東北の太平洋岸に多く分布し、火 伏せや航海安全に関する信仰として伝承 されてきました。八戸市内でもいくつか の地域に虎舞が伝えられており、八戸三 社大祭の行列の中で披露されます。 虎に 頭を噛まれることで無病息災のご利益が あるとされており、人気のある芸能です。

### 大神楽



獅子舞が伊勢神宮や熱田神宮の信仰と結 びつき、芸能となったもの。お伊勢参り に行くことができない人のために地方を 巡回していた神楽に始まり、やがて地方 に定着したと言われています。八戸三社 大祭では、大神楽が各神社行列の先頭に 立ち、道を払い清めて歩きます。



山伏による神楽の一つで、おがみ神社に て伝承されてきた法霊神楽。神楽の中心 演目は、獅子頭「権現様」を持って舞う権 現舞で、数人の舞手が獅子頭を一糸乱れ ずに打ち鳴らす「一斉歯打ち」に心が清 められます。八戸三社大祭ではおがみ神 社の行列に参加しています。























